

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

茨木市 西中学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・総合的学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・人権学習をはじめとする様々な教育活動を通して、一人ひとりが大切にされ、誰もが安心して生活できる学級や学年、学校、社会をめざす。
- ・当たり前だと思っていることが誰にとっても当たり前なのかということや、私たちの固定観念や価値観だけで物事をとらえていないなど、人権学習を通じて多角的な見方を養う。

実施した内容

- ・SDGsのリーフレット、ユニセフ「世界に広めようSDGs」の動画視聴（1時間）
- ・ローテーション道徳（環境学習、エネルギー学習、防災学習、生物多様性、気候変動、国際理解学習、世界遺産）の学習（8時間）
- ・「SDGs宣言」というタイトルで、自分の思いを交流（3時間）

工夫した点

- ・授業において日常的にグループ学習を積極的に取り入れ、班づくりを意識した授業づくりを行った。
- ・班ノートを活用し、自分の思いや日々の生活のふりかえりを綴り、教職員と生徒や生徒同士がつながる集団づくりをすすめた。
- ・SDGsを学び、自分には何ができるのかを考え、班やクラスで自分の思いや意見を交流した。

他教科との
関連

道徳

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

茨木市 西中学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・将来、仕事でも、家庭でも、男女が自分らしく生きることができる社会を実現する力を育てる。
- ・現在の女性の現状や課題、女性を支援するしくみについて理解を深める。

実施した内容

- ・性別による社会的な役割分担意識について考え、男女間の賃金格差（国際比較）から社会のしくみや固定観念について考える。（1時間）
- ・生徒には知らせずに、予め持っている金額に差がある状態からオークションを行い、自分の欲しい物を落札する活動を行い、社会の中にある経済格差を疑似体験する。その体験から、男女の賃金格差などを考える。（1時間）

工夫した点

- ・自分の固定観念に気づくように、家庭内の女性の役割やイメージを交流した。
- ・社会の中の女性の現状について、マイナス面だけではなく、プラス面に焦点をあて、意見を出せるようにする。

他教科との
関連

社会科において、近世の日本の風潮について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

茨木市 西中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

中学1・2・3年生・学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・障がいのある生徒・保護者の気持ちを知らせることで、障がいのある生徒に対する理解を深め、仲間としてのかかわりや自分自身のことを考えるきっかけにする。
- ・障がいの有無にかかわらず、一人ひとりが、かけがえのない命をもっており、大切な存在であることを知る。

実施した内容

- ・ゾウのイラストを描き、一人ひとりの描き方のちがいを交流する。
- ・「ぞうさん」の歌の詩に込めた作者の意図を知り、ちがいについて意見を交流する。
- ・支援学級の生徒と保護者の作文に込められた思いについて考え感想を記入する。（1時間）
- ・感想文を通信にして共有する。（1時間）

工夫した点

- ・保護者と事前に打ち合わせをし、学習内容と保護者の作文の内容について共有した。
- ・生徒の特性に配慮した授業サポートを行った。
- ・支援学級の生徒に対する事前指導（作文の朗読）を行った。

他教科との
関連

社会科（基本的人権）

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

茨木市 西中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 団結して差別と立ち向かう力強い姿と出会い、自分や仲間のしんどさ・生きづらさと重ね合わせて、多様性を楽しめる社会の担い手になる。

実施した内容

- ・ デマや噂に流され、軽はずみに広げることで人を傷つけることもあることを知る。（1時間）
- ・ 映像「三月三日の風」を視聴して、明治から水平社宣言までの流れを知る。（2時間）
- ・ 当事者による講演会を通じて、現在の同和問題について考える。（1時間）
- ・ 「わたしの水平社宣言」というタイトルで、自分の思いを交流する。（1時間）

工夫した点

- ・ インターネット上には、人権やプライバシーの侵害につながる情報や間違った情報も多く含まれているため、メディア・リテラシーが高まる教材を活用した。
- ・ 読み物教材より映像の方が理解が進むために活用した。
- ・ 講演会で体験談を聞くことにより、同和問題を自分事として捉えることができた。
- ・ 1年時より計画的にクラスミーティングを行い、「わたしの水平社宣言」につなげた。

他教科との
関連

- ・ 社会科で、差別をされていた人々について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

茨木市 西中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・情報の発信者・受信者の両方の立場として、モラルと人権意識を高める。
- ・情報の発信者として、情報に対する責任をもつ姿勢を育成する。
- ・情報の受信者として、メディア・リテラシーを高める。

実施した内容

- ・新型コロナウイルスによる差別や偏見について考える。（1時間）教材『赤十字社』
- ・講演会（参加：生徒と保護者）で、インターネットを悪用した犯罪に巻き込まれる例などを知る。（1時間）

工夫した点

- ・自分も感染する可能性がある新型コロナウイルスによる差別や偏見などの例をあげた。
- ・講演会に保護者も参加してもらい、家庭内で保護者と子どもで話し合い、スマホなどの利用のルールについて考える機会をつくった。

他教科との
関連

技術・家庭科（情報の技術）

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

茨木市 西中学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

中学1年生・総合的学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・多様な性について学ぶことで、一人ひとりが持つ個性に気づき、自己と他者のちがいを認識し、互いを尊重する心を育む。
- ・セクシャルマイノリティの生徒にとって、自分の性のあり方によって自己嫌悪したり自尊心が低下することのないように自己理解を深める。
- ・いろいろな人がいて当たり前前のクラスをめざす。

実施した内容

- ・「ちがいのちがい」から男女の格差について考え、日常での不便さや差別について意見交流する。（2時間）
- ・パワーポイントを使ったシュミレーションで、自分ならトランスジェンダーの友人にどのように接するかセリフを考えて、選択肢を選んで進めていくなかで、まわりにいる人にどのように接するか、行動するかを考える。（2時間）

工夫した点

- ・当事者がいることを前提として、肯定的なメッセージの発信になるような設定を行った。
- ・事前に学年教員全員で授業シュミレーションを実施した。
- ・知識を教えることに終始することのないように、当事者の映像を活用したり、生徒同士の意見交流の時間を多く設けた。
- ・この学習により自分が当事者の可能性であることに気づく生徒も出てくることを想定し、気軽に相談しやすい学年・学校体制を意識した。

他教科との
関連

保健体育（身体の成長）、社会科（基本的人権）